

郡山市セーフコミュニティ推進協議会

こどもの安全対策委員会 活動報告



報告者 委員長 吾妻 利雄

こどもの安全対策委員会の構成

【市民団体等 6人】

民生児童委員協議会連合会(1人)
PTA連合会(1人)
青少年健全育成推進協議会(1人)
子ども会育成連絡協議会(1人)
観光交流振興公社(1人)
郡山市子ども子育て支援企業組合(1人)

合計 15人

【行政 4人】

こども家庭支援課(1人)
保育課(1人)
教育委員会総務課(1人)
学校教育推進課(1人)

【保育・教育関係者 5人】

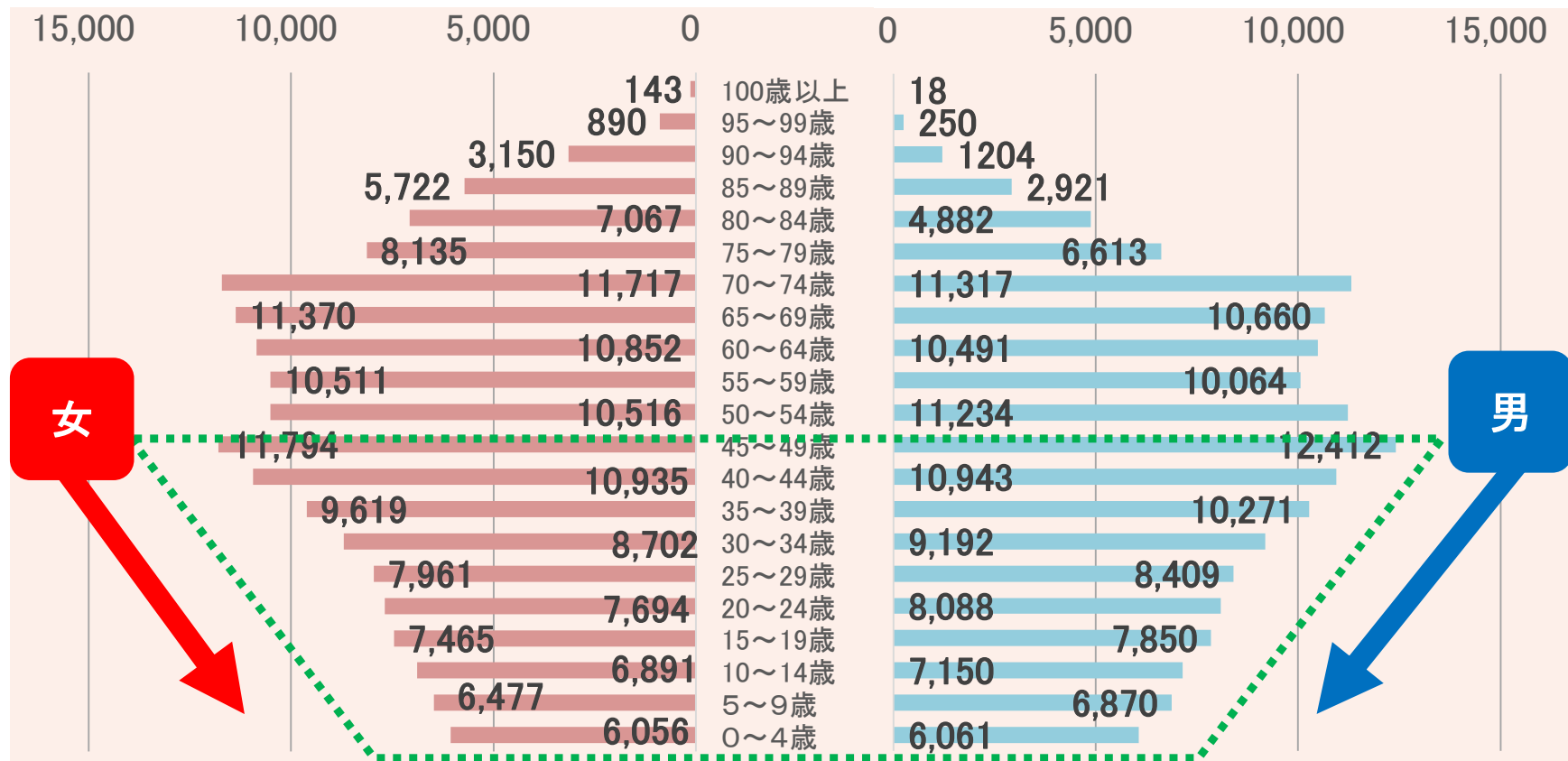
認可保育所長会(1人)
民間認可保育所連絡会(1人)
私立保育園連絡協議会(1人)
私立幼稚園・認定こども園連合会(1人)
小学校長会(1人)

こどもの安全対策委員会を設置した背景

背景① こどもの数が年々減少している。

図1 郡山市の年齢階層別人口(2022.1.1現在)

人口 319,702人 (女性:162,802人 男性:157,727人)

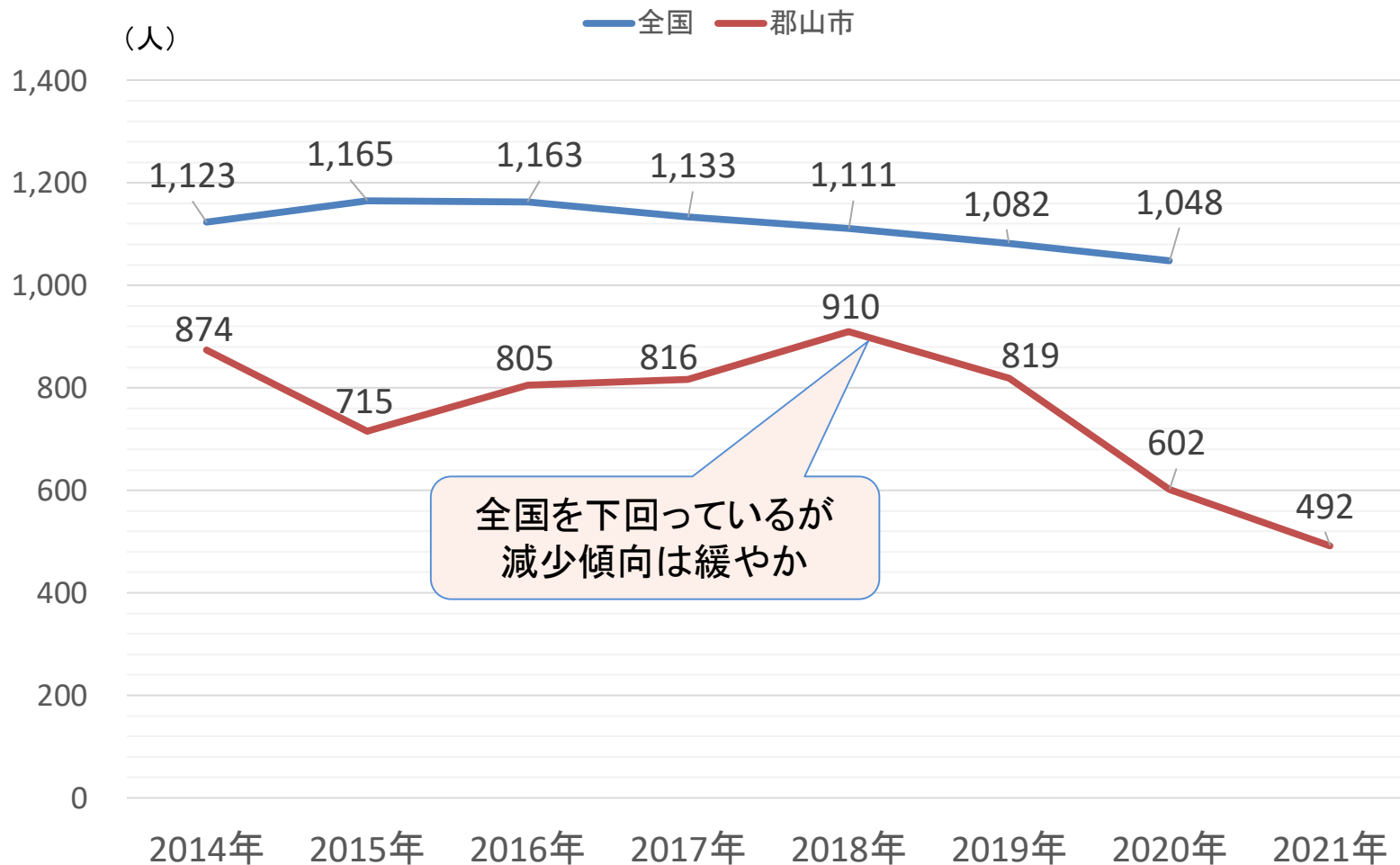


出典:郡山市住民基本台帳

背景② 新生児～乳幼児の救急搬送者数の大きな減少はない

図2-1 全国・市の交通事故及び一般負傷での救急搬送者数

※新生児・乳幼児(0-6歳)10万人あたり 全国は2020年まで

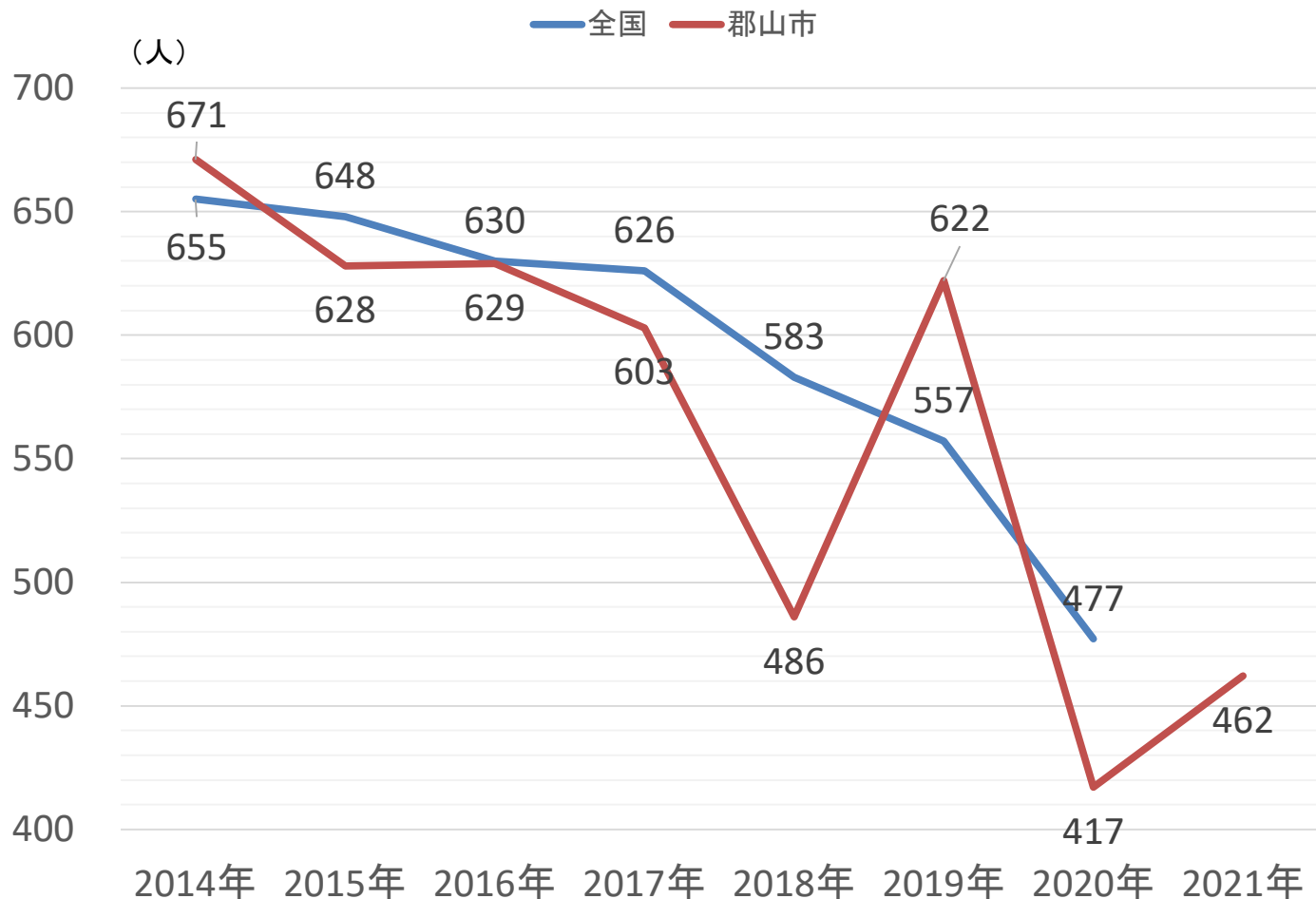


出典:総務省消防庁「消防白書」、郡山地方広域消防組合「救急搬送データ(国表)」

背景② 新生児～乳幼児の救急搬送者数大きな減少はない

図2-2 全国・市の交通事故及び一般負傷での救急搬送者数

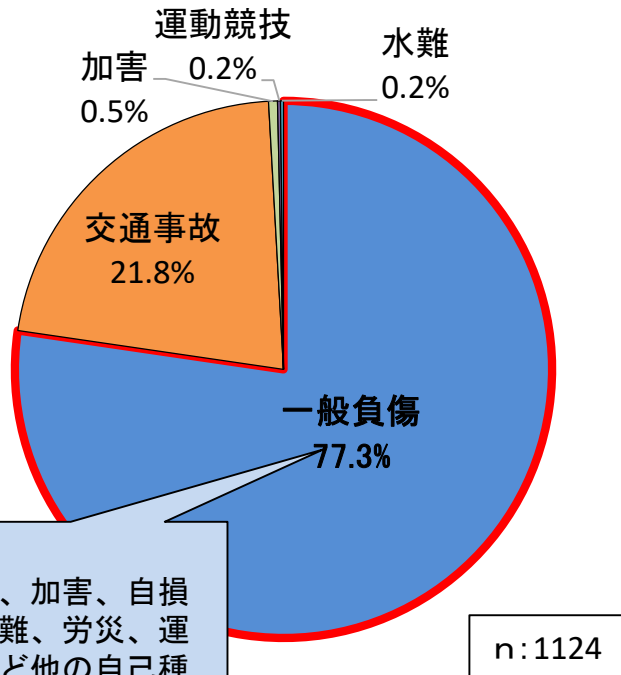
※少年(7-17歳)10万人あたり 全国は2020年まで



背景③ 新生児～乳幼児(0～6歳)では一般負傷、少年(7～17歳)では交通事故による救急搬送が一番多い。

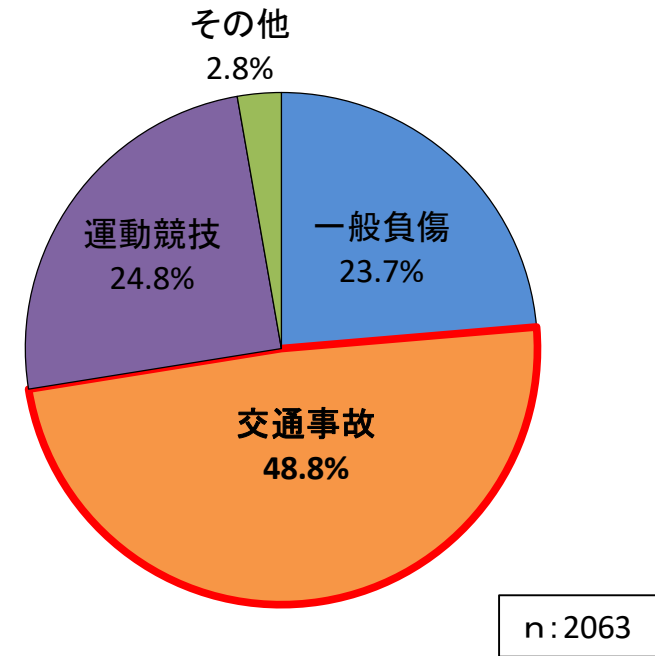
図3-1 救急搬送された子どものけがや事故の種別(2014～2021年累計)

新生児～乳幼児の救急搬送種別



交通事故、加害、自損行為、水難、労災、運動競技など他の自己種別に当てはまらない物

少年の救急搬送種別

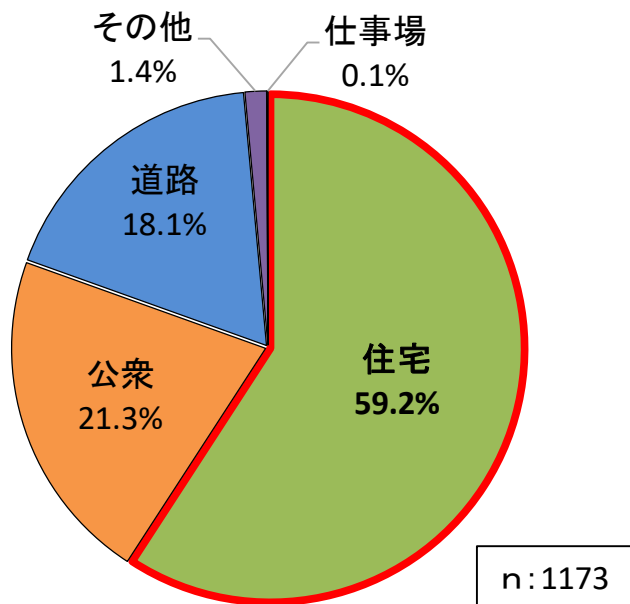


出典:郡山地方広域消防組合 2014-2021年救急搬送データ(詳細)

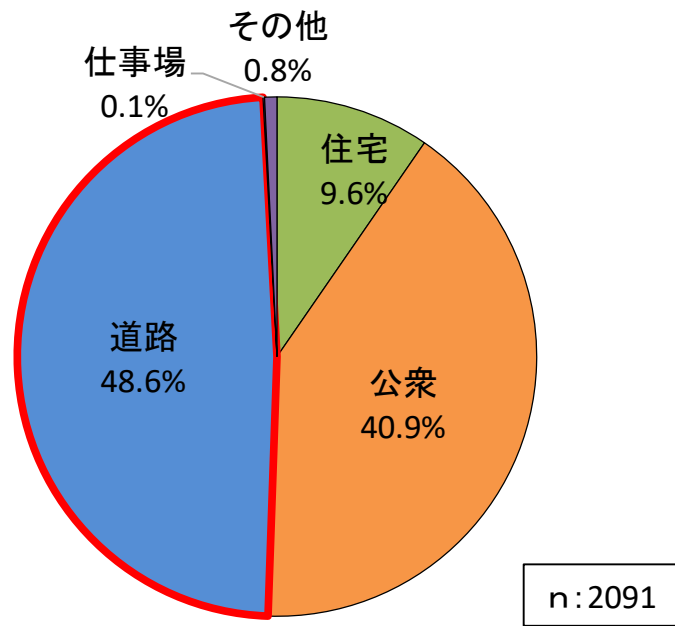
背景③ 新生児～乳幼児(0～6歳)では一般負傷、少年(7～17歳)では交通事故による救急搬送が一番多い。

図3-2 子どもの救急搬送場所(2014～2021年累計)

新生児～乳幼児の救急搬送場所



少年の救急搬送場所



出典: 郡山地方広域消防組合 2014-2021年救急搬送データ(詳細)

これまでの活動経過

回	開催日	目的	活動概要	
24	2018年	5月22日	認証後の取組	・未実施の取組の実施方法について検討
25		7月24日	地域診断について	・地域診断で収集したいデータについて協議
26		10月3日		・地域診断の調査項目の確定
27		11月28日	虐待防止について	・分科会として虐待防止の取組について検討
28	2019年	1月22日	SCフェスタの説明	・SCフェスタの概要説明
29		5月14日	今まで取組の説明	・新メンバーを迎えての活動の振り返り
30		6月7日	具体的対策の検討	・交通事故防止、通学時の安全について検討
31		7月17日		
32		9月6日	具体的取組の検討	・児童虐待防止法の改正を踏まえ取組の見直し
33		11月26日	アンケート調査	・SCに関するアンケート調査の項目検討
34	2020年	1月21日	具体的対策の検討	・事故防止モデルルームの周知活動の検討
35		7月7日	今まで取組の説明	・新メンバーを迎えての活動の振り返り
36		10月27日	具体的対策の検討	・現在行われている取組の確認
37		11月25日	具体的対策の検討	・家庭内の事故防止について周知方法の検討

回	開催日	目的	活動概要
38	1月26日	具体的対策の検討	・前回の検討内容を反映した家庭内の事故防止についての周知活動とアンケート調査の検討
39	6月2日	今まで取組の説明	・新メンバーを迎えての活動の振り返り ・事前指導に向けたスケジュール確認
40	6月29日	効果検証	・地域診断の結果及び外傷サーベイランス委員会の意見について確認 ・家庭内の事故防止についての結果報告
41	7月27日	具体的対策の検討	・児童虐待防止の取組内容の検討 ・交通事故防止の周知活動の検討
42	8月31日	・事前指導資料検討 ・効果検証	・交通事故防止の周知活動アンケートの確認 ・上記活動のアンケート結果報告
43	9月28日		・事前指導用資料の内容確認及び修正(書面開催)
44	3月10日	市民意識調査検討	・令和4年度(第5回)セーフコミュニティ市民意識調査の内容検討(書面開催)
45	5月27日	各委員所属団体における連携状況	・将来課題を踏まえた連携のあり方(合同対策委員会)
46	7月11日	今後の連携と取組	前回の協議内容の活動内容への反映
47	8月3日	現地審査資料の検討	現地審査資料(案)の内容確認
48	9月2日		現地審査資料の修正・追加内容の確認(書面開催)

データに基づく客観的な課題

今までのセーフコミュニティ活動の中で見えたこと

特徴①

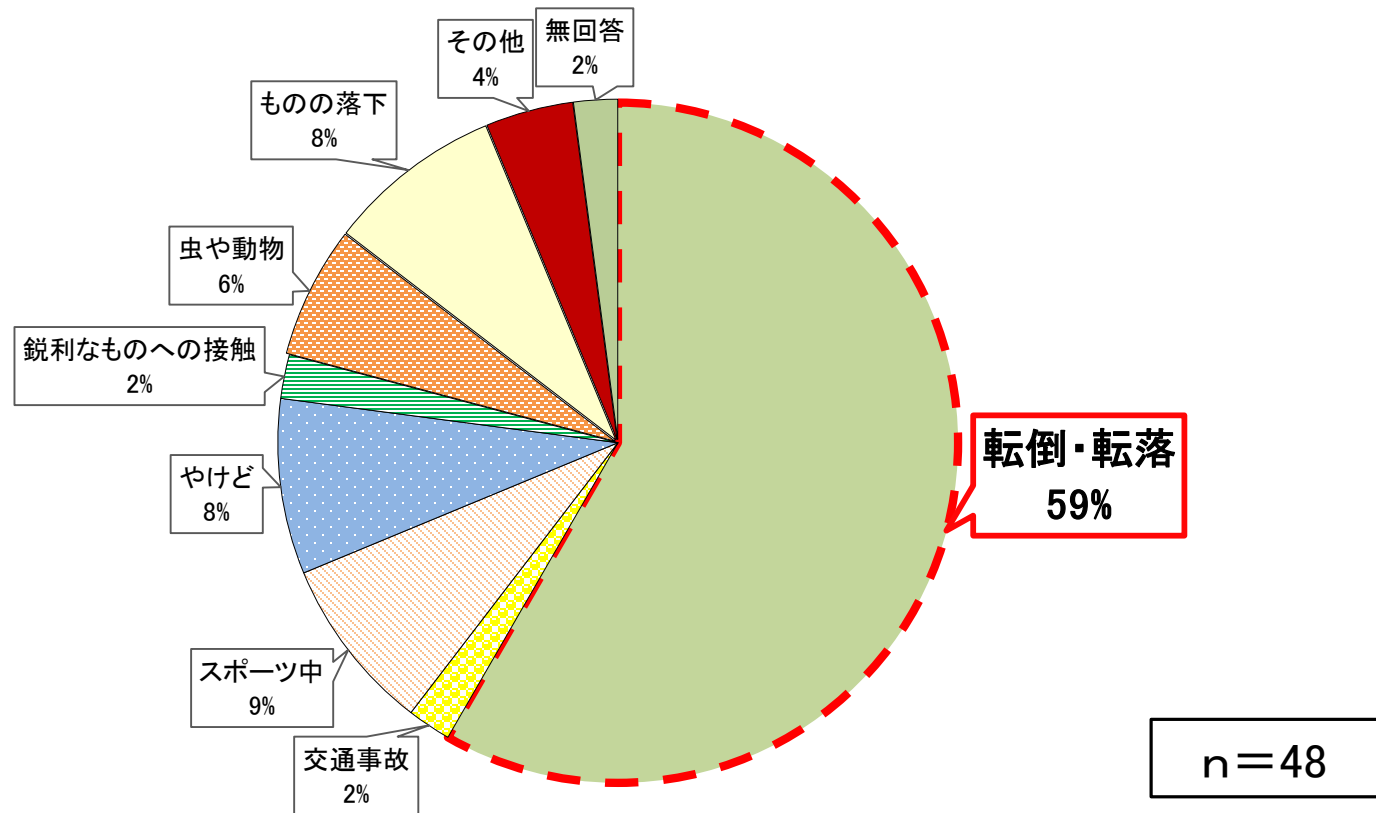
新生児～乳幼児の救急搬送数の減少が大きくは減っていない。
(図2-1、2-2より)

特徴②

新生児～乳幼児(0～6歳)では一般負傷、少年(7～17歳)では交通事故による救急搬送が一番多い。(負傷の傾向変わらず)
(図3-1,3-2より)

特徴③ 新生児-乳幼児の緊急搬送の傾向

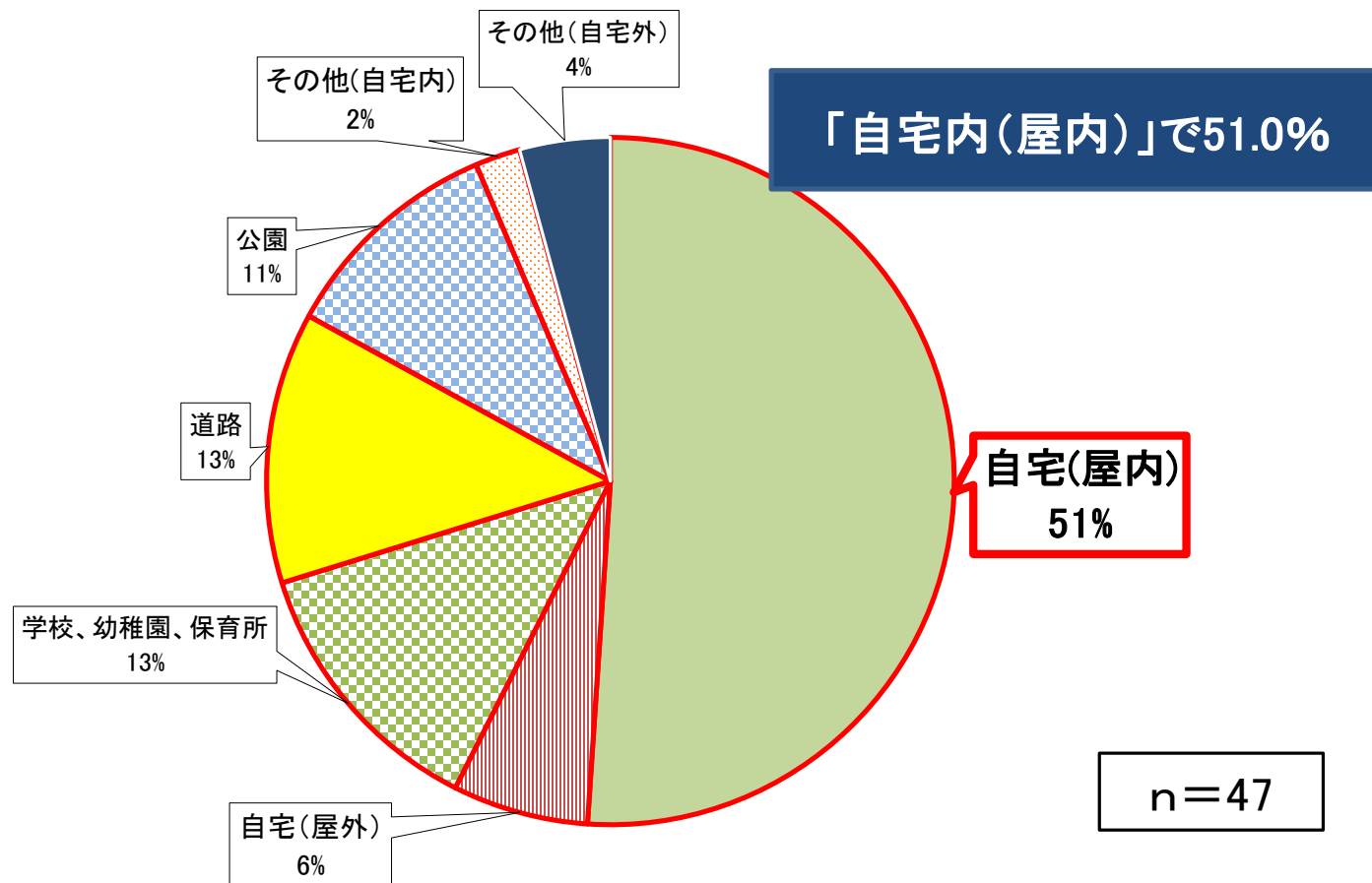
就学前の子どものけがの種類別割合



出典：第5回郡山市セーフコミュニティ市民意識調査

特徴④ 少年の緊急搬送の傾向

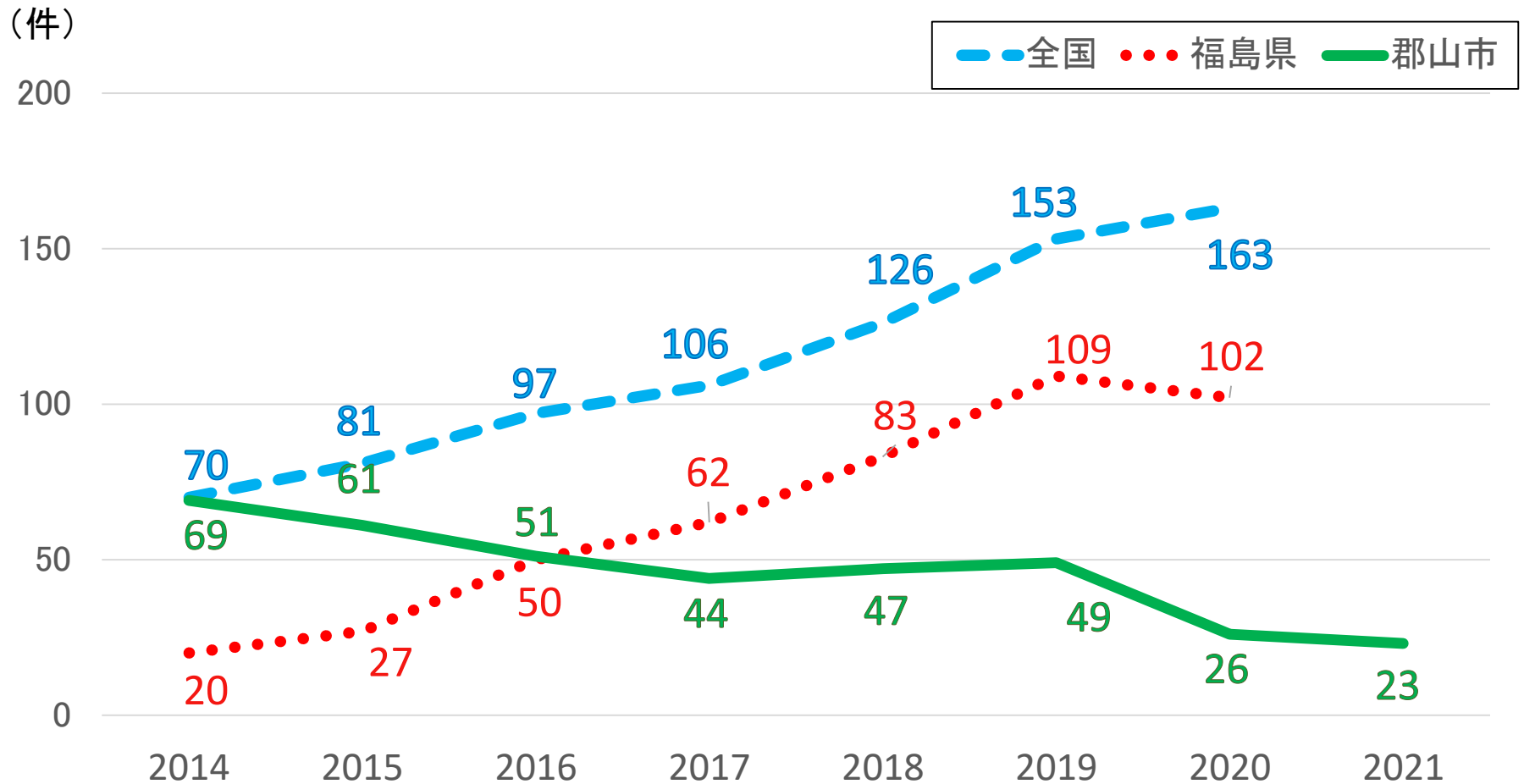
図5 乳幼児がけがをした場所の件数割合



出典：第5回郡山市セーフコミュニティ市民意識調査

特徴⑤ 郡山市への児童虐待の相談件数は横ばいから減少傾向

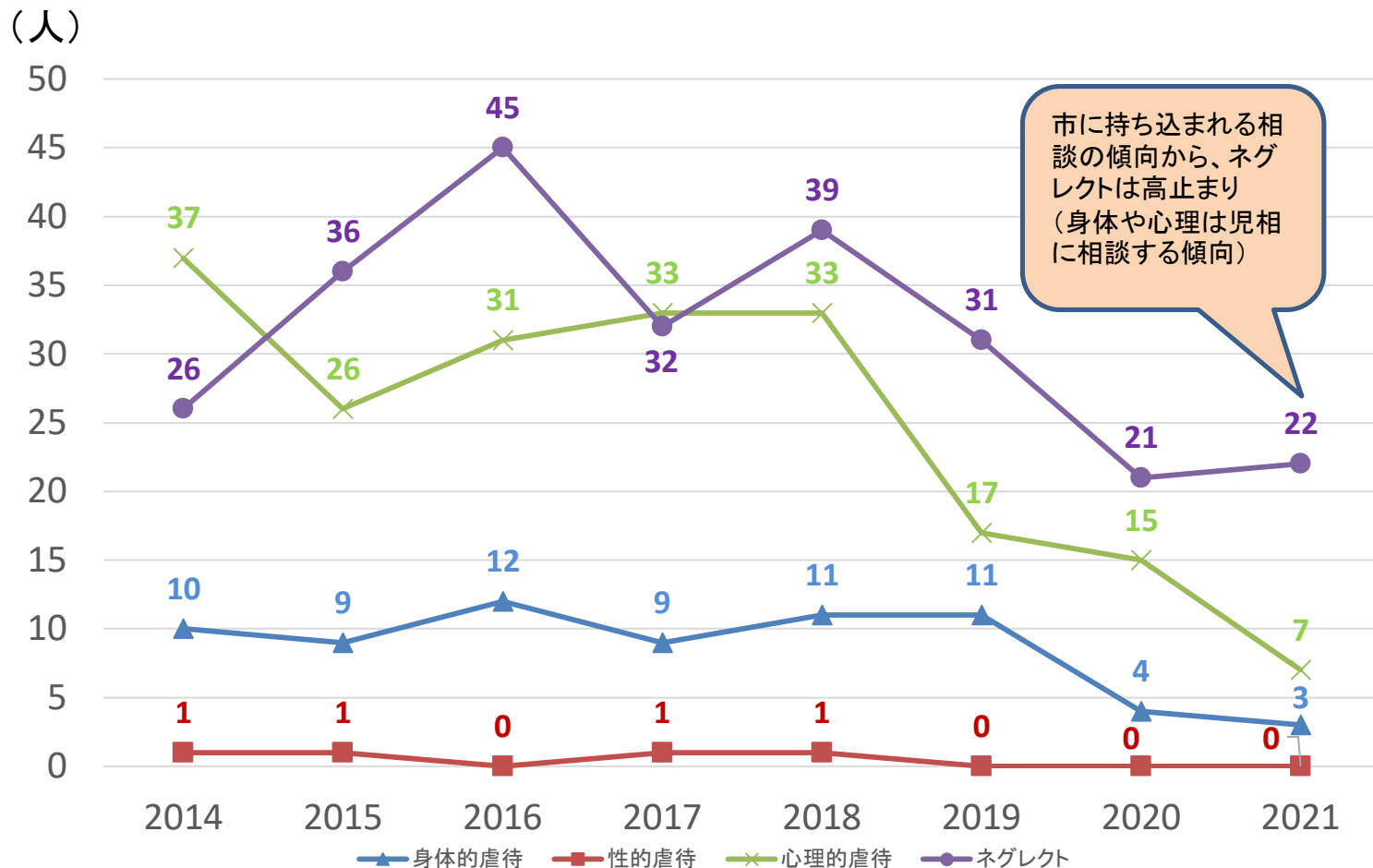
図6 人口10万人当たりの児童虐待相談件数推移



出典：厚生労働省「2014～2020年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」
こども家庭相談センター「2014～2021年度 相談等の取扱件数推移」

特徴⑥ 子どもに対する虐待がなくなる。

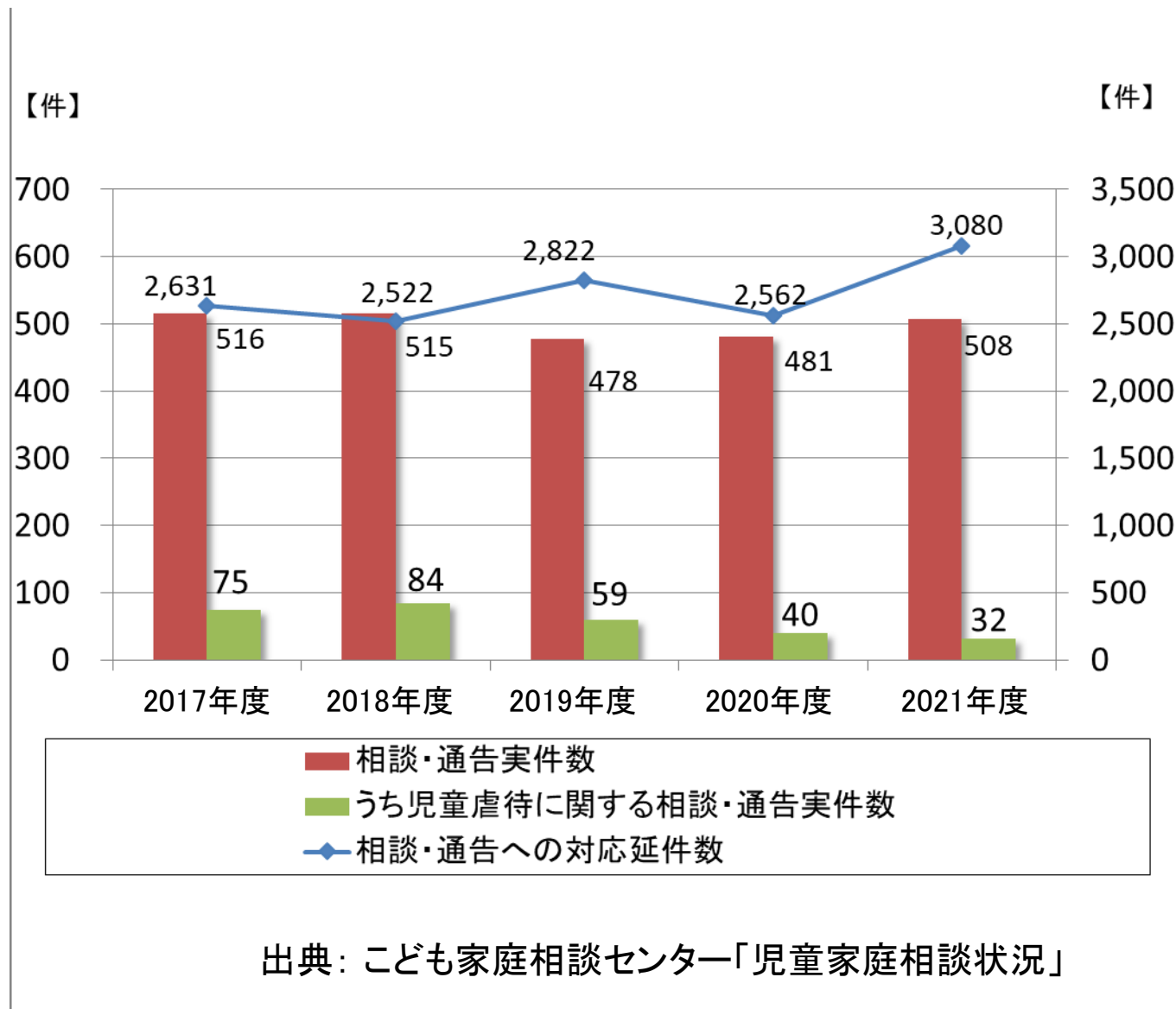
図7 郡山市の児童虐待種別ごとの推移



出典：こども家庭相談センター「2014～2019年度 相談等の取扱件数推移」

特徴⑥ 子どもに対する虐待がなくなる。

図8 こども家庭相談センター相談・通告及び対応件数の推移



重点課題の選定(継続)

図9

図3-1
3-2

図4

図5

図6

図7

図8

課題1 7~17歳(小学生~高校生)の交通事故が多い

課題2 子ども(0歳~17歳)に対する虐待が
なくなる

課題3 0~6歳(乳幼児)のけがは、自宅及び
その周辺と幼稚園、保育所が多い

国・県・警察、市、地域別の現在の取組み(継続)

図10

		国・県・警察	市	地域
課題① 7～17歳(小学生～高校生)の交通事故が多い	環境改善	道路環境の改善		
	規則・罰則			
	教育・啓発	悪質違反者講習	交通安全教室	通学路安全指導 課題1 取組①
課題② 子どもに対する虐待がなくなる	環境改善	子育て支援・保育施設の機能充実		見守り活動
	規則・罰則	罰則強化	通報・連絡	
	教育・啓発	啓発・相談窓口の広報		課題2 取組①、②
課題③ 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	環境改善	施設の改善・従事者数の適正化		
	規則・罰則			
	教育・啓発	啓発		けがをしない体づくり 課題3 取組①、②

インターネットやテレビ、子育て情報誌等の情報
子育て世代の交流による事故情報の共有

既存の取組み

(国・県・市など)【道路環境の改善】

国、県、市、警察、学校、地域団体との協働による通学路の安全点検



(市)【啓発・相談窓口の広報】
LINE子ども・子育て相談

(市)【啓発・相談窓口の広報】
児童虐待防止に関する街頭活動

郡山市LINE子ども・子育て相談事業

LINEで相談しませんか

郡山市 子ども・子育て相談を友達登録しよう!

アカウント名: 郡山市LINE子育て相談
ID: @939yzvid

秘密は守ります! 匿名でOK!

▲友達登録はこちらから



既存の取組み

(市)【啓発】

けがや事故が起きやすい状況を再現した「事故予防モデルルーム」の設置



【けがをしない体づくり】

子どもの体力・運動能力を向上させるための運動あそびの実施



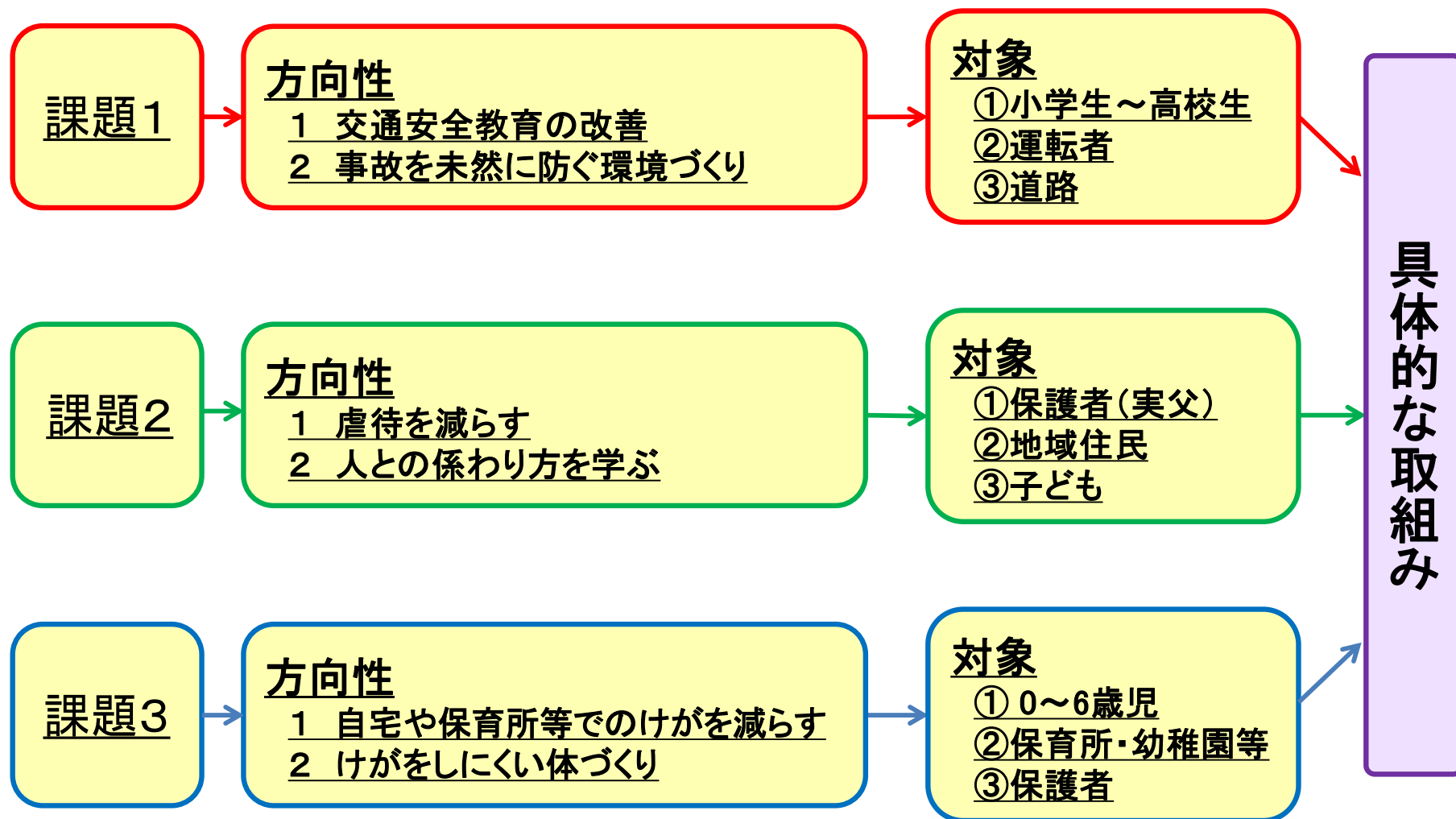
既存の取組み

子どもの体力・運動能力を向上させるための遊び場の整備



重点課題に対する方向性、重点対象

図11



重点課題に対する取組み

図12

課題1

取組① 「交通事故多発地点マップ」の配布
【交通安全対策委員会と協働】

課題2

取組① 児童虐待防止の啓発DVD貸出しを支援

取組② 団体・企業での虐待に関する出前講座開催を支援

課題3

取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを
周知するチラシの配布

取組② 自宅での事故防止に関する講習会の開催
【郡山地方広域消防組合と協働】

課題1 7～17歳(小学生～高校生)の、交通事故が多い

取組① 交通事故多発地点マップの配布

内容

交通安全対策委員会との協働取組として、小・中・高校を通じて、運転者でもある子どもの保護者に対して「交通事故多発地点マップ」を配布する。

方向性

2 事故を未然に防ぐ環境づくり

対象

②運転者

実施主体

こどもの安全対策委員会
交通安全対策委員会

活動指標

配布先数: 9施設

配布部数: 約2,000部

(2021,2022年度実績)



課題1 7～17歳(小学生～高校生)の、交通事故が多い

取組① 交通事故多発地点マップの配布

効果検証方法

交通事故多発地点マップ配布時にアンケートを実施
(アンケート回答期間:2022年8月25日～9月23日)

図13-1 事故が多く発生している場所の認知度

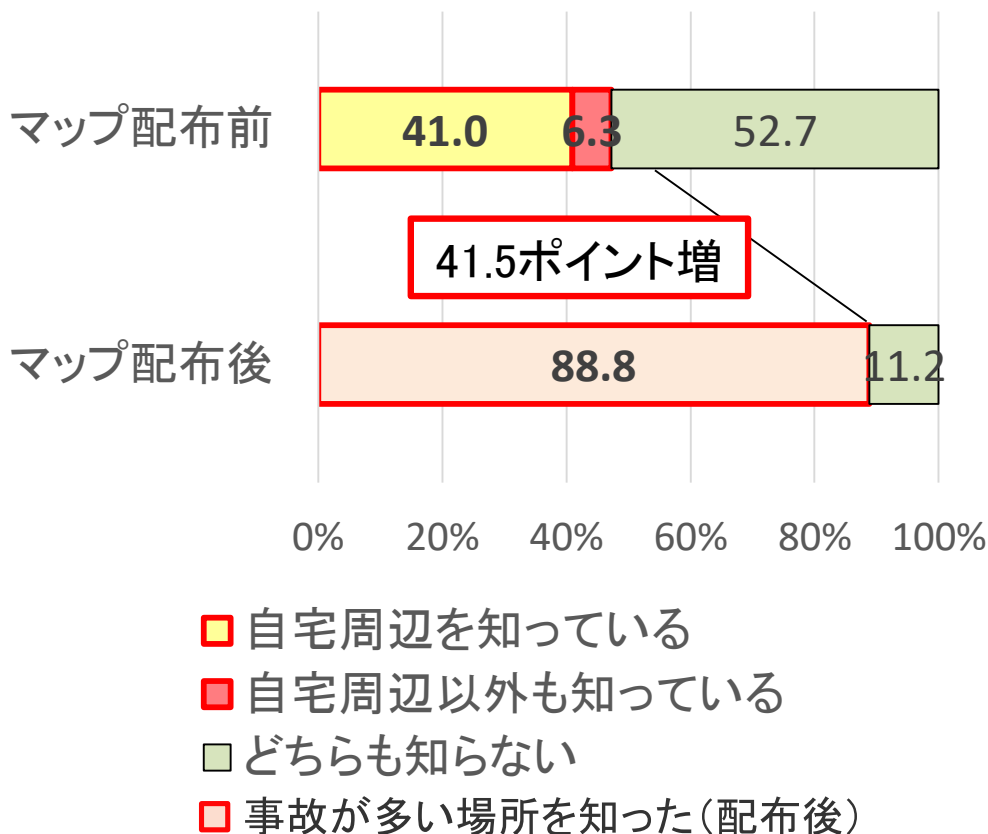
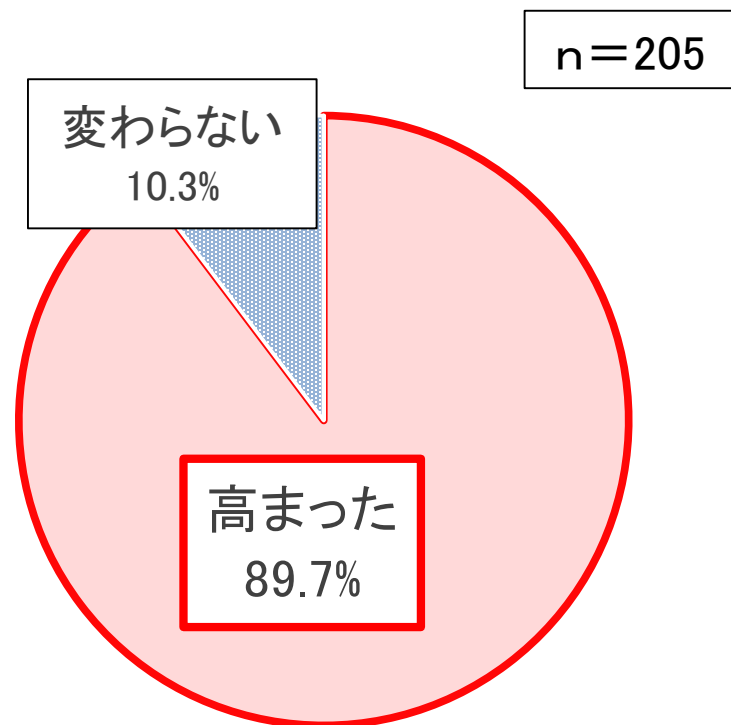


図13-2 交通安全意識の変化



課題2 子どもに対する虐待がなくなる

取組① 児童虐待防止の啓発DVD貸出しの支援

内容

郡山市が実施している、子育てや福祉に関係する団体を対象に、児童虐待の現状や「しつけ」と「虐待」の違い等について学ぶのに役立つDVDの貸し出しについて、当委員会との連携を活用し周知啓発を行う。

方向性

①虐待を減らす

対象

②地域住民
(主に子ども関係団体を対象)

実施主体

郡山市

活動指標

貸出回数、視聴者数
(令和4年度から開始)

事業アピールチラシ

児童虐待防止啓発用DVD貸出しのお知らせ

地域全体で児童虐待についての理解を深め、児童虐待の防止、早期発見のために、下記のとおり啓発用のDVDを無料で貸し出します。
職場や所属団体の研修会などでご利用ください。

記

- 目的**
児童虐待の現状やその背景についての理解を深め、児童虐待防止に対する意識の醸成を図る。
- 貸出対象**
郡山市要保護児童対策地域協議会の構成団体や、子育て関係団体、その他、児童虐待の早期発見や未然防止に関心のある企業や任意団体等。
(原則として、個人に対する貸出しは行わない。)
- 貸出期間**
1回につき7日間まで (料金は無料)
- 貸出DVD**
◇「しつけ」と「虐待」 (作成：株式会社新宿スタジオ)
第1巻 その違いを考える (49分)
第2巻 不適切な親の養育態度と子どもの問題
～保育支援におけるさつき～ (39分)
※1巻ずつでも2巻セットでも貸出し可能。
- 申込方法**
申請書により、郡山市こども家庭支援課こども家庭相談センターまで申し込む。
- お願い**
DVD視聴後、必ず視聴者全員で別添のアンケートに回答くださるようお願いいたします。
(貸出し時に用紙をお渡ししますので、返却時にお持ちください。)

----- 切り取り -----

DVD借用申請書

団体名			
借出者氏名	電話番号		
利用目的		視聴予定者数	名
借用期間	年 月 日 から	年 月 日	まで

課題2 子どもに対する虐待がなくなる

取組② 団体・企業での虐待に関する出前講座開催を支援

内容

郡山市が実施する出前講座に、児童虐待防止をテーマとする「みんなで守ろう！子どもの未来」を追加し、団体・企業等での保護者や地域住民に対し講座を開催するにあたり、当委員会との連携を活用し周知啓発を行う。

方向性

1 虐待を減らす

対象

- ①保護者
- ②地域住民
(主に子ども関係団体を想定)

実施主体

郡山市

活動指標

開催回数：1回(年3回程度)

参加者数：20名

令和4年度 市政きらめき出前講座
みんなで守ろう子どもの未来
~「だれか」じゃなくて「あなた」から~

郡山市こども部こども家庭支援課こども家庭相談センター

児童虐待の通告

児童福祉法第25条(要保護児童を発見した者)

- 要保護児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の児童相談所又は児童委員を介して市町村、都道府県の児童相談所に通告しなければならない。

児童虐待防止法第6条(児童虐待に係る通告)

- 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の設置する福祉事務所若しくは児童相談所又は児童委員を介して市町村、都道府県の設置する福祉事務所若しくは児童相談所に通告しなければならない。

課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知するチラシの配布

内容

自宅での事故を防止するためのチェックリストと、市が設置している子育て支援施設「ニコニコこども館」にある「事故予防モデルルーム」の案内を掲載したチラシを、保育所・幼稚園に通う子どもの保護者に対して配布する。

方向性

1 自宅や保育所等でのけがを減らす

対象

③保護者


実施主体

こどもの安全対策委員会

活動指標

配布先数：155施設

配布部数：約14,000部(2021年)



あなたの自宅は大丈夫？
自宅内での事故から子どもを守ろう！

子どもの一般傷病事故の状況


子ども(0～12歳)が救急搬送された場所

n=2,126人


救急搬送された子どもの事故種別

n=2,126人


※一般傷病事故とは、交通事故などに付随する一時的な負傷で、転倒、転落、やけど、熱傷などをいいます。
※転倒・転落は転倒転落事故(転倒)と転落(転落)の2つに分けて子ども事故発生数を集計しています。



<窓やベランダからの転落に注意！>
窓やベランダの近くには踏み台になるもの(ソファや室外機など)を置かないようにしましょう。
窓に指を挟まじたり、ベランダへの出入口のカギをお子さんが外せないように対策をしましょう。



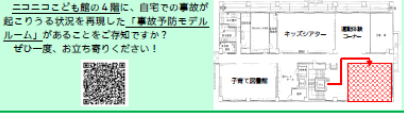
<ブラインドのひもによる窒息に注意！>
ブラインドやカーテンのひもが指に絡まじよう、子供の手が届かない所にまめ、ソファなど踏み台になるものを近くに置かないようにしましょう。
ひもがない安全性の高い製品を選びましょう。



<ドアの開閉による指はさみに注意！>
ドアの開閉時には子どもが近くにはないかよく確認しましょう。
ドアのちようつがい部分が閉閉防止カバーを付けるなど安全対策をしましょう。

自宅での子どもの事故を防ごう！ニコニコこども館「事故予防モデルルーム」

ニコニコこども館の4階に、自宅での事故が起こりうる状況を再現した「事故予防モデルルーム」があることをご存知ですか？ぜひ一度、お立ち寄りください！




子どもの事故防止・チェックリスト

住宅(自宅)での子どもの事故は、親の注意や確認づくりによって防ぐことができます。ご家庭で事故防止ができていますかチェックしてみましょう！

1歳6ヶ月ごろ		3歳ごろ	
項目	チェック	項目	チェック
1 子どもを1人で客中トイレに預けていない	<input type="checkbox"/>	1 子どもを1人で客中トイレに預けていない	<input type="checkbox"/>
2 風呂に入るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて載せている	<input type="checkbox"/>	2 風呂に入るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて載せている	<input type="checkbox"/>
3 浴槽に水をためたままにしている	<input type="checkbox"/>	3 浴槽に水をためたままにしている	<input type="checkbox"/>
4 寒気、転倒、炎傷などは子どもの手の届かないところに置いている	<input type="checkbox"/>	4 寒気、転倒、炎傷などは子どもの手の届かないところに置いている	<input type="checkbox"/>
5 タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置いている	<input type="checkbox"/>	5 タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置いている	<input type="checkbox"/>
6 ヒートアップ機能は子どもの手の届かないところに置いている	<input type="checkbox"/>	6 ヒートアップ機能は子どもの手の届かないところに置いている	<input type="checkbox"/>
7 暖房器具(ストーブ、こたつなど)の暖房器具が適切に設置されている	<input type="checkbox"/>	7 ストーブやヒーターなどは、安全網で囲い、罩物がないようにしている	<input type="checkbox"/>
8 ガソリンや灯油は、子どもの手の届かないところに置いている	<input type="checkbox"/>	8 ガソリンや灯油は、子どもの手の届かないところに置いている	<input type="checkbox"/>
9 ページ用紙やおもちゃを誤入すること、アダプターも誤食性を確認している	<input type="checkbox"/>	9 ずりやぐりやプラソンの安全な取り方を確認している	<input type="checkbox"/>
10 階段に転倒防止柵を取り付けている	<input type="checkbox"/>	10 ペランダや窓のそばには踏み台になるようなものを置いていない	<input type="checkbox"/>

子どもの事故防止ハンドブック・カレンダーをご活用ください！

消費者庁の「子どもを事故から守る」事故防止ポータル」から「事故防止ハンドブック」や「事故防止カレンダー」のダウンロードができますので活用ください。



【発行：熊山市セーフコミュニティ推進協議会「こどもの安全対策委員会」】

課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知するチラシの配布

効果検証方法

子どものけが・事故防止等チラシ配布前後にアンケートを実施
(事前:2021年2月9日～28日、事後:2021年3月9日～31日)

図14-1 自宅内で子どもの事故防止策を実施している人の割合

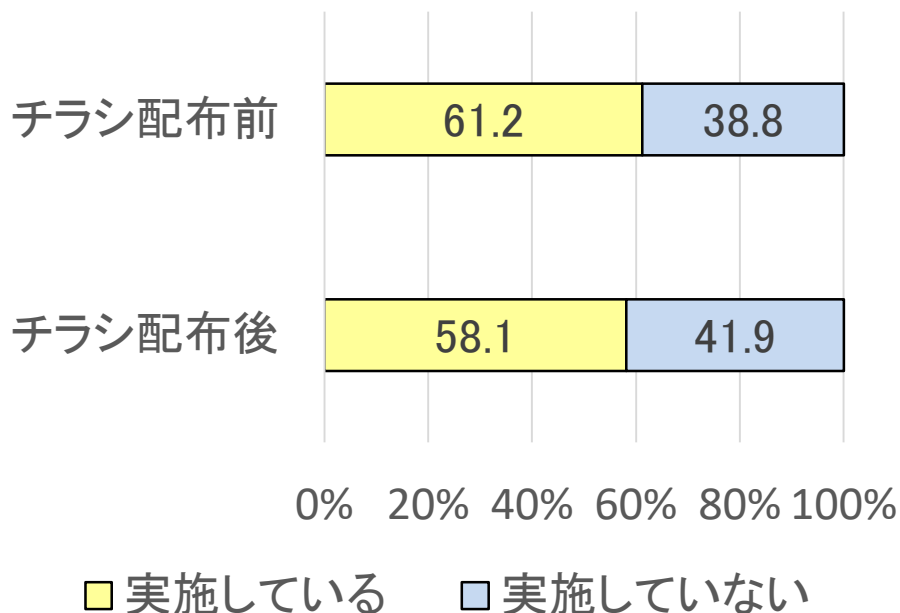
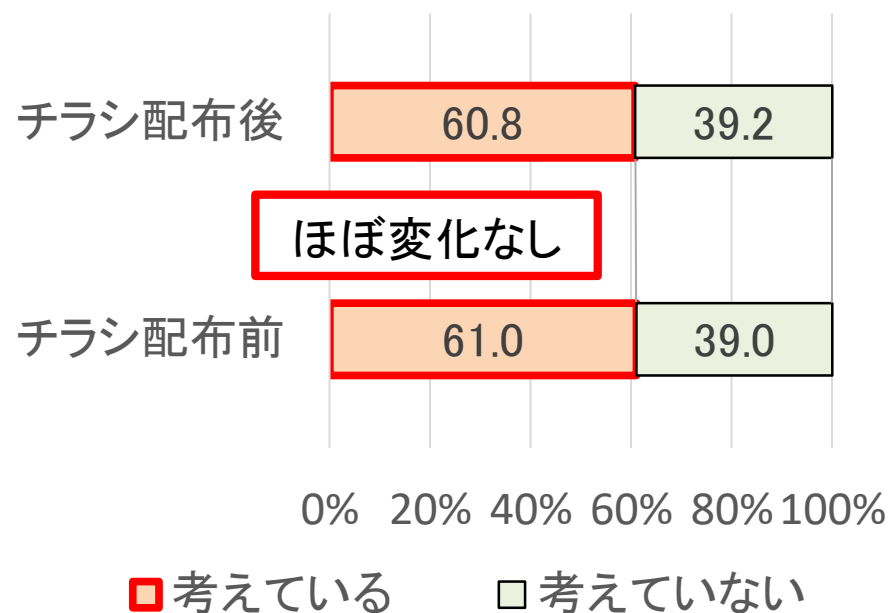


図14-2 「事故予防モデルルーム」に対する意識変化



課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知するチラシの配布

図15-1 事故予防モデルルームの認知度

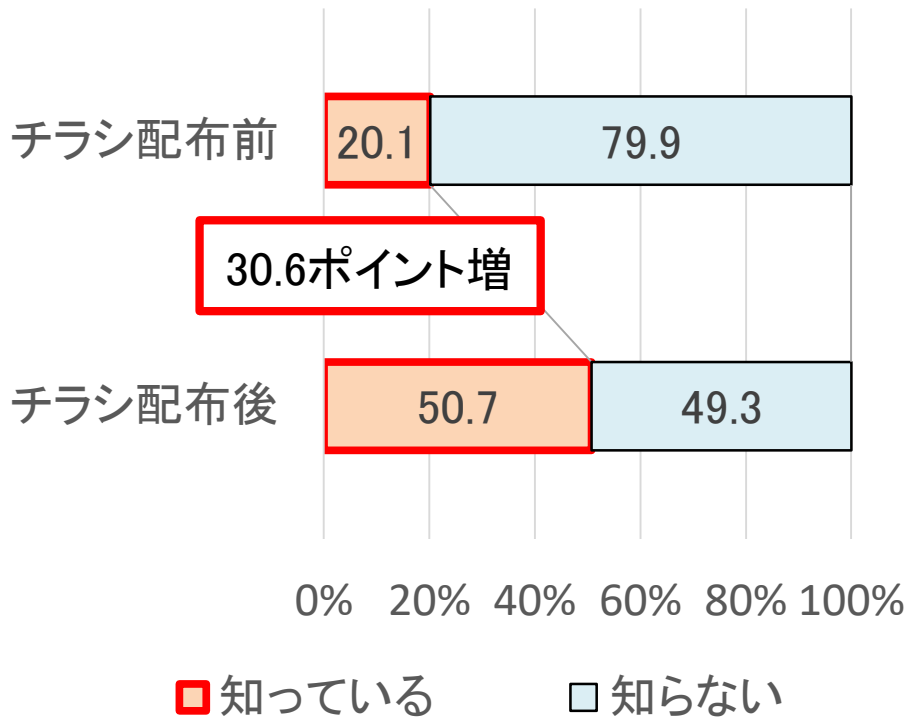
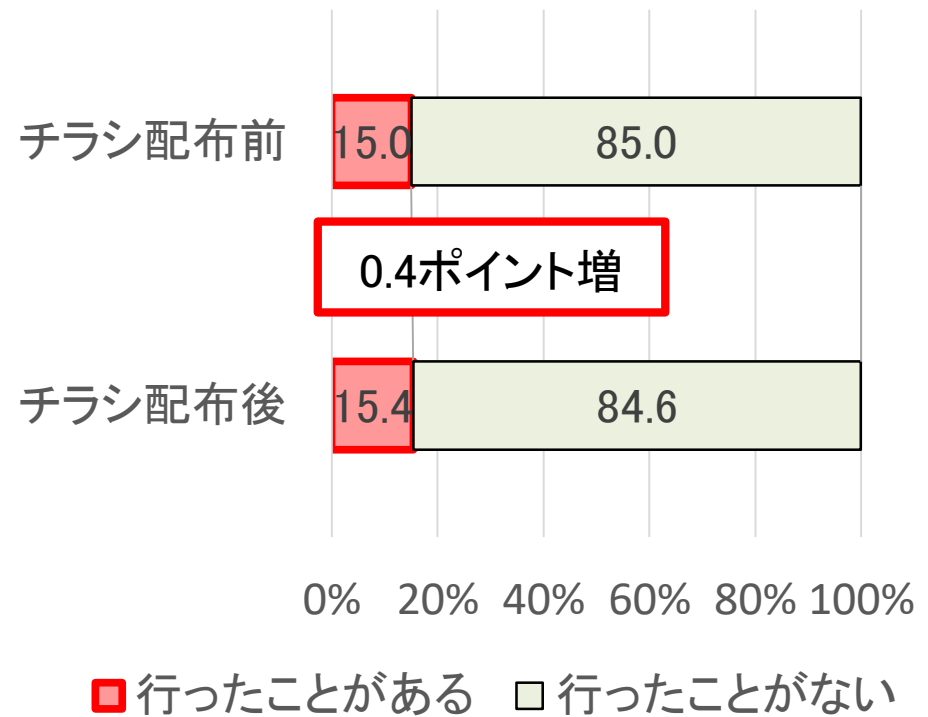


図15-2 事故予防モデルルームに、実際に行ったことがある人の割合



課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

取組② 自宅での事故防止に関する講習会の開催

内容

郡山地方広域消防組合と郡山市が協働し、「事故予防モデルルーム」を活用して、救急救命士が自宅でのけがや事故の予防法や危険箇所についての講習を行うことで、子どものけがや事故の予防に関する意識を高める。

方向性

- ①自宅や保育所等でのけがを減らす

対象

- ①0～6歳児、③保護者

実施主体

郡山市
郡山地方広域消防組合

活動指標

開催回数: 1回予定
参加者数: 40名程度

【現時点での取組状況】

・2019年まで行ってきたが、新型コロナウイルス感染症のため 2020、2021年とも開催中止

- ・2022年は十分な感染対策をしたうえで実施予定
- ・講習会に加えて、集団検診などで「事故予防モデルルーム」のあるニコニコこども館に来館する保護者に対する、周知活動を検討。

取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
7～17歳の交通事故が多い	<p>交通事故多発地点マップ配布</p> <p>9施設 約2,000部 (2021年)</p>	<p>事故多発地点の認知度の向上</p> <p>配布前: 55.5% ↓ 配布後: 89.1% (2021年)</p>	<p>交通安全意識の高まり</p> <p>「高まった」と回答した者: 87.1% (2021年)</p>	<p>子どもの交通事故の発生件数の減少</p> <p>92人(2016年) ↓ 54人(2021年)</p>

取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
子どもに対する虐待がなくなる	<p>児童虐待防止の啓発DVD貸出しを支援</p>	<p>児童虐待行為の認知度の向上</p> <p>意識調査 アンケート予定</p>	<p>児童虐待防止に関する意識の高まり</p>	<p>児童虐待に関する相談件数の増加</p> <p>88件(2016年) ↓ 32件(2021年)</p>
	<p>出前講座開催を支援</p> <p>開催:1回 予定:3回</p>	<p>児童虐待行為の認知度の向上</p> <p>意識調査 アンケート予定</p>	<p>児童虐待防止に関する意識の高まり</p>	

取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	子どもの事故防止等チラシ配布 155施設 約14,000部 (2021年)	事故予防モデルルームの認知度の向上 配布前: 20.1% ↓ 配布後: 50.7% (2021年)	自宅での事故防止対策の実施割合の向上 配布前: 61.2% ↓ 配布後: 58.1% (2021年)	自宅とその周辺、幼稚園、保育所でのけがの発生件数の減少 106人(2016年) ↓ 82人(2021年)
	事故防止講習会開催	自宅での危険箇所の認知度の向上		

取組後の変化と問題点

重点課題	取組後の変化	現状の問題点
7～17歳の交通事故が多い	<p>交通事故多発地点の認知度が上がった</p> <p>交通安全に対する意識が高まった</p>	<p>事故多発地点を知らない人が意外に多く、ハード・ソフトの両面から対策する必要がある。</p>
子どもに対する虐待がなくなる	<p>児童虐待防止に関する意識が高まった</p>	<p>児童虐待の相談件数は横ばいから減少傾向にある一方、虐待に至らない相談・通告件数や対応件数は増加している。</p>
0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	<p>自宅での事故防止に対して意識する人の割合は変わらない</p> <p>事故予防モデルルームの認知度が上がった</p>	<p>自宅で子供の防止策を実施した割合が変わらなかった。</p> <p>実際に事故予防モデルルームを訪れた割合が伸びず、コロナ禍で周知活動も中止となった。</p>

現時点での問題を踏まえた今後の目標

課題	現時点での問題点	今後の目標
7～17歳の交通事故が多い	事故多発地点を知らない人が意外に多く、ハード・ソフトの両面から対策する必要がある。	<p>交通事故多発地点の周知方法改善</p> <p>当事者である子ども世代、保護者世代の意見を取り入れ、当事者層に届く情報発信の検討</p>
子どもに対する虐待がなくなるならない	児童虐待の相談件数は横ばいから減少傾向にある一方、虐待に至らない相談・通告件数や対応件数は増加している。	相談傾向の変化を考慮し、虐待に至らない相談等の相談についても啓発対象を広げ、虐待の未然防止を目標に加える
0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	<p>自宅で子供の防止策を実施した割合が変わらなかった。</p> <p>実際に事故予防モデルルームを訪れた割合が伸びず、コロナ禍で周知活動も中止となった。</p>	<p>自宅での事故対策を行う最初の第一歩につなげる取組</p> <p>ニコニコこども館の来館者に、事故予防モデルルームに来てもらう取組</p>

SC活動を通して見えてきた今後の方向性

内容

合同対策委員会等を通して、重点課題以外の分野でも他の委員会の活動とのつながりを意識する機会が増えており、今後は連携拡充を進め、より一層の子どもの安全の向上を図りたい。

方向性

- ①他対策委員会との連携による既存取組の充実
- ②合同活動による新しい取組の開発

当委員会に参加する団体や施設が持つリソースを、他委員会が取り組む課題の解決に結びつける事により、より効率的かつより広い層に届く対策が可能になるのではないかと。

主な連携状況

参加団体・施設等	連携内容	連携先
保育所、認定こども園	避難訓練(地域単位の合同避難訓練や避難所対応)	防災・環境安全対策委員会 →一般の避難者児童のケア・預かり対応を行う
	通学路合同点検	警察、地区自治会、行政当局
学校	児童の不登校見守り	自殺予防対策委員会
	児童の地区行事参加	高齢者団体

御清聴ありがとうございました。

